

下水道事業 令和4～7年度財政計画

＜下水道事業＞ 水道事業同様、地方公営企業法を適用（＝法適用。適用しない場合は法非適という）。供用開始・法適用ともS38。最終料金改定はH14。

＜分流式と合流式＞ 分流式は、雨水と汚水を別の管で流し、処理。合流式は、雨水と汚水を同じ管で流し、処理。本市の公共下水道は、旧市街地は合流式（処理場は六供）、その他は分流式（下水処理場は玉村（県施設））。

＜経費負担＞ 汚水＝私費（下水道使用料）、雨水＝公費（一般会計）、し尿＝公費（一般会計）。本市では、雨水・し尿処理を下水道事業会計で行っているため、一般会計との関わりが深い。

1 収益的収入及び支出（主なもの）（金額は計画期間4年間の合計【税抜】）

下水道使用料 120億円 **収入283億円**

R4～7では、ほぼ横ばい

他会計負担金 111億円（うち市負担111億円）

雨水・し尿に関する支出は、一旦、下水道事業会計で支出。実績等の按分をもとに、一般会計等へ請求し、受け入れ。

電力料 10億円

委託料 26億円

請負費 21億円

流域下水道管理運営費 37億円

支出277億円

R4～7の4年間の純利益6億円

H30～R3の4年間の純利益 12億円

まとめ

R4～7の4年間は、黒字は維持できるものの、過去の黒字額と比較すると減少傾向。安定的な経営は可能だが、将来的には厳しい状況。

2 資本的収入及び支出、補てん財源（主なもの）（金額は計画期間4年間の合計【税込】）

企業債 59億円

収入110億円

国県補助金 28億円

一般会計出資金 17億円（繰出基準等に基づく）

「計画区域内の新設に加え、**支出212億円**

既設管の耐震化や更新を実施」

管渠の新設 30億円

管渠の耐震化・老朽化対策 23億円

「六供水質浄化センター更新事業」

六供温水プール解体 2億円

六供コミュニティクラブ設計・移転・新築 4億円

更新工事（1年目） 4億円

流域下水道建設費 4億円

企業債償還金 115億円

収支不足は、補てん財源

収支不足102億円

（前年度黒字額や内部留保資金など）で充当する。収支不足額の増加や前年度黒字額の減少等により、補てん財源が減少傾向。

まとめ

六供水質浄化センターの更新工事がR7年度から本格的に始まるため、資金面では、将来的に厳しい状況が想定される。

3 使用料算定（R4～7の下水道使用料で、使用料原価をまかなうことができるか【税抜】）

下水道使用料 120億円

>

使用料原価 110億円

まとめ

R4～7の4年間は、下水道使用料が使用料原価（下水道使用料でまかなうべき原価）を上回り、純利益を確保できる見込みで、下水道使用料を据え置くことができる。

4 将来的な課題

黒字額が過去と比較し減少。R3からの繰越金12億円（予定）が、計画期間を経て、次期（R8～）計画への繰越金は4億円となり、8億円減少する見込み。今後も計画的な更新工事や更なる経費節減などに努めるとしても、将来的には下水道使用料の改定は避けられない状況。

資料3-1

税抜

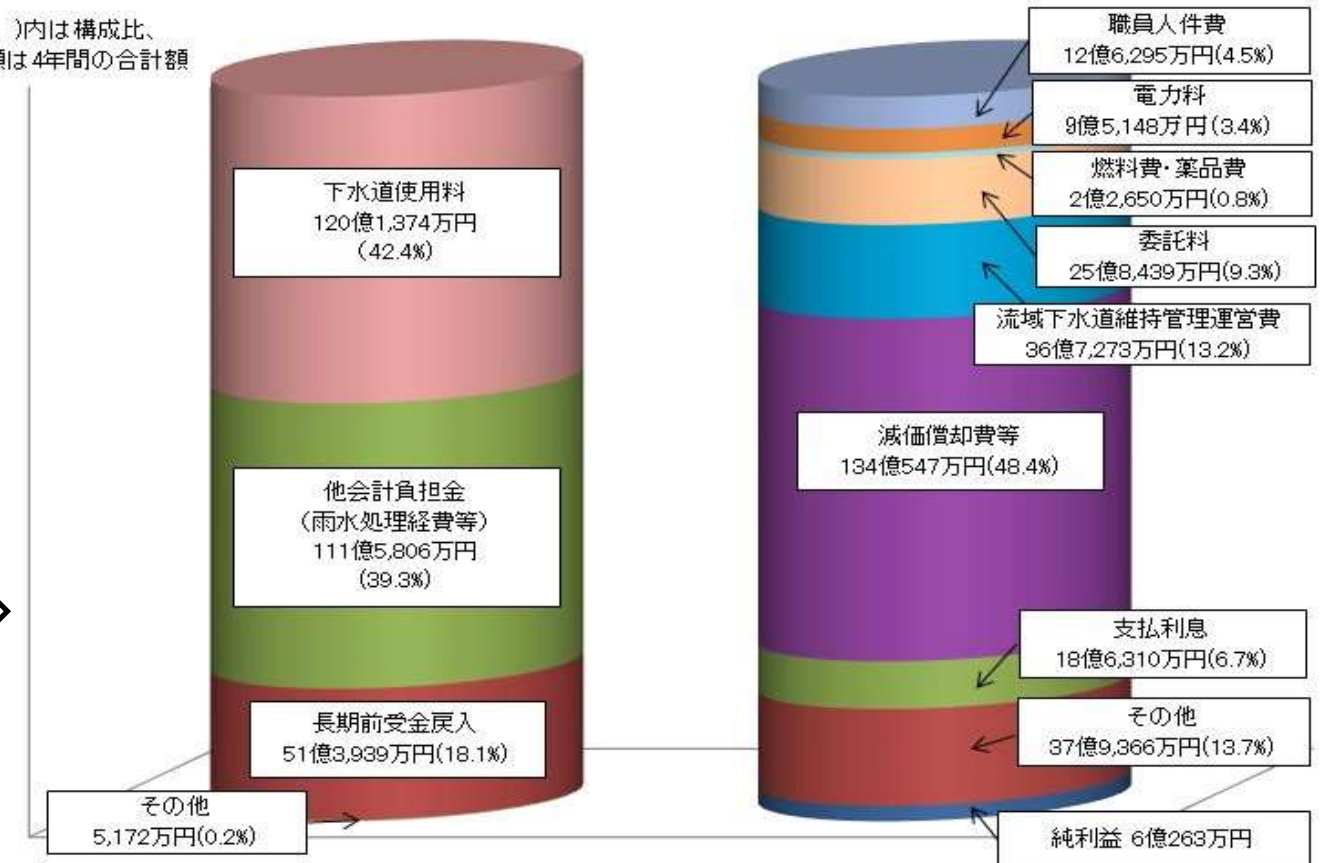
【収益的収支】…下水道の管渠や処理施設などの維持管理経費とその財源となる下水道使用料などの収支状況

収入合計 283億6,291万円

（ ）内は構成比、金額は4年間の合計額



支出合計 277億6,028万円

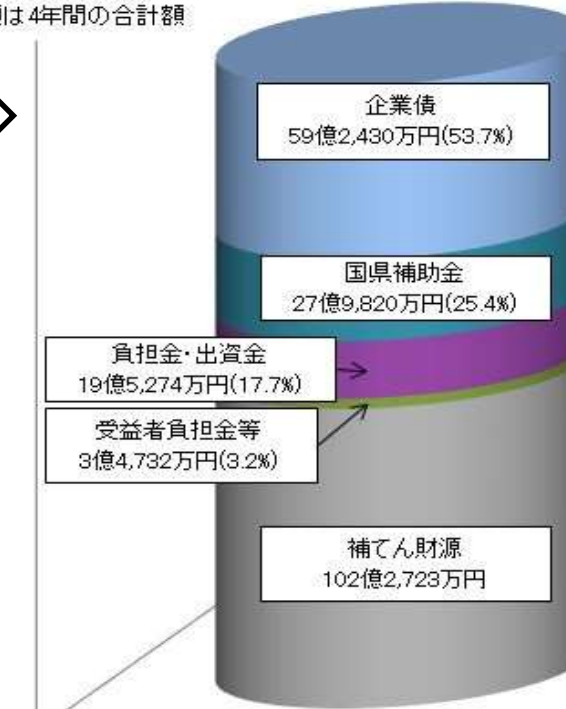


税込

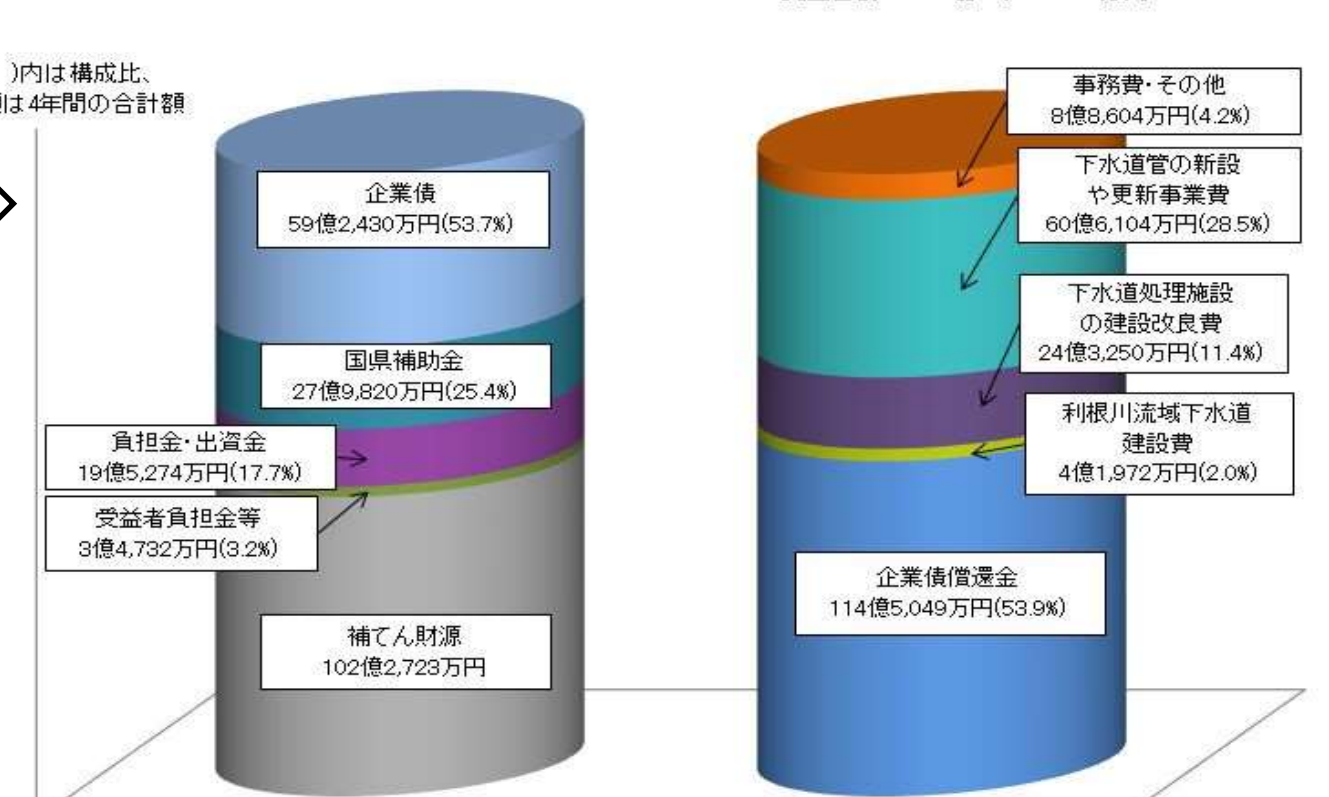
【資本的収支】…下水道施設の整備などに必要な工事費などの投資的経費とその財源となる企業債などの収支状況

収入合計 110億2,256万円

（ ）内は構成比、金額は4年間の合計額



支出合計 212億4,979万円



前橋水質浄化センター更新事業

水質浄化センター(六供町)は、本市の汚水・し尿・雨水を処理する下水処理施設で、最も古い施設は50年以上が経過し、更新が必要な時期となりました。また、市内の下水道管は、現在の処理施設に向かい敷設されており、処理施設の移転は困難であることから現在地での更新を決定しました。

しかし、既存施設を稼働しながら現地での施設更新を行うこととなるため、施設規模や処理方式、工事の施工順序や施工方法、完成後の施設配置は適正か、などを改めて検討するため、R1年度に基本構想を策定しました。

本事業は、概算事業費約323億円、工事期間25年(R31年完成見込)となる大規模事業です。

なお、基本構想で、大まかな施設概要や配置計画を決定しましたが、それらを具体化し基本設計図を作成するとともに、より詳細な概算事業費の算出を行うため、R2年度から今年度の2年間で基本設計業務を実施しています。

《R4～R7財政計画事業費(10億2,290万円)》

OR4:5,340万円

・PPP/PFI手法導入可能性調査、六供町コミュニティクラブ移転・新築実施設計、六供温水プールアスベスト調査ほか

OR5:3億9,070万円

・アドバイザー業務、六供温水プール解体実施設計、六供町コミュニティクラブ移転・新築工事、六供町コミュニティクラブ駐車場等整備

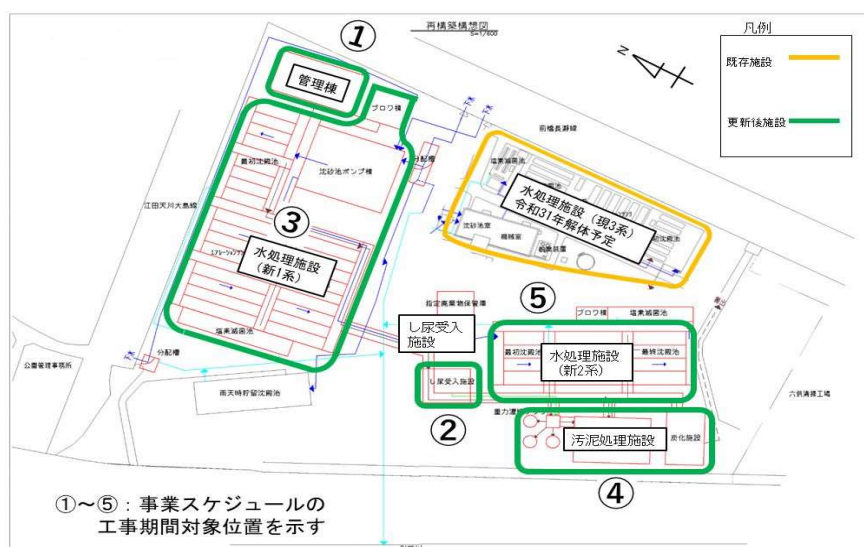
OR6:1億5,880万円

・アドバイザー業務、六供温水プール解体工事

OR7:4億2,000万円

・管理棟建設工事

更新後の施設配置図(予定)



管渠新設事業(29億8,467万円)

流域関連公共下水道事業計画を中心に、約12kmの污水管渠整備を実施します。

なお、管渠新設事業については、R7年度を目途に下水道未普及地区の整備が概ね終了となる予定です。

下水道ストックマネジメント計画事業(23億1,040万円)

下水道施設すべてを一体的にとらえ、計画的に点検・調査・改築を行うことで、施設全体の機能確保を図ることを目的とした下水道ストックマネジメント計画に基づき、老朽管の改築・更新事業を実施します。